

医療従事者部門

にしむら

西村 かおる

日本コンチネンス協会 会長

世の中でタブー視されがちな排泄障害のケアに取り組んできた。協会を立ち上げ、積極的な啓発活動や後継者の育成、排泄障害者のサポートグループを援助、企業との協力で用具の研究開発も推進。日本で初めて、排泄障害の無料相談を開設、現在も継続している。排泄障害のケアを広く認知させるために、看護の視点から継続して活動をしている。

推薦者 川嶋 みどり 日本赤十字看護大学 教授・看護学部長



西村かおる氏は17年前から世の中のタブーである排泄障害に取り組んできた。その背景には、排泄障害が理屈抜きに人の尊厳を脅かし、本人だけではなく、介護者の負担も非常に大きいということを訪問看護の経験から実感したことにある。

訪問看護を学ぶために英国に留学した際に「コンチネンス・アドバイザー」という職業を知る。日本では排泄ケアが、定期的におむつを交換するだけの消極的なケアであったことを実感し、排泄障害の予防、治療に加えて、治療が困難な場合でも、生活上問題にならないようにするコンチネンスケアの重要性を学び帰国した。

そして、コンチネンスケアを日本に広めたいと、日本コンチネンス協会を設立、NPO(非営利団体)活動を行い、臨床での実践、教育をはじめ、積極的な活動を続けてきている。

2006年には、第19回老年泌尿器科学会学会会長を、初めて医師以外である看護師として務めた。内容は医師とコ・メディカルだけではなく、医療と福祉、そして排泄障害を持つ当事者、そして企業が協力しあう構成とし、排泄障害のみをテーマとした会としては、海外も含めて最大の参加者数の学会となった。

なお、本学会では、尿失禁のみならず排泄障害についても取り上げた。排泄障害は、高度医療の陰でともする

人の尊厳を守るために：
コンチネンスケアの充実を目指す。



コンチネンスケア

1993年「日本コンチネンス協会」設立。
日本コンチネンス協会は、排泄と失禁の問題に悩む人の支援のために活動している団体です。「すべての人が気持ちよく排泄のできる社会づくり」を目標に活動し、コンチネンスの輪を広げています。



■カウンセリング風景

と見えにくいのが、切実な問題であることは確かであり、超高齢化社会にあつては、そのケアの充実を図ることの意味の大きさは図り知れない。